

年間第6主日
マタイ 5・17-37

2014.2.16 9:30 ミサ

オリビエ・シェガレ

(パリミッション会司祭)

「私が来たのは律法や預言者を廃止するためではなく、完成するためである」。これは有名な言葉ですが、律法と預言者は一体何を指すかと改めて考えてみたい。日本語で律法と訳するヘブライ語のトーラーはモーセ五書にあり、十戒を中心に 612 ほどの掟を含んでいるが、本来の意味は導きの意味です。日本語の律法は、古代語の「律」、古代の律令制度を思わせ、罰則と誤解されやすく、適切ではないと言えます。律法は人間の生き方を律するというより、モーゼを通して神様から与えられた賜物で、幸福に生きる道です。神に人に押しつけられたものではなく、人間の責任と自由に委ねられている掟です。この掟を守ることによって人間が幸せに生きようになると聖書が繰り返して言います。律法の多くの掟の中に最も大切にされている掟は神の愛と隣人を自分のように愛しなさいといのです。これは旧約聖書を貫いている教えだけでなく、イエスの教えの中心でもあることは皆さんがご存知でしょう。ところが長いイスラエルの歴史の中で、人、特にやもめ、みなしご、異邦人、弱者のいのちを支えるはずのこの愛といのちの律法は、歪んでいき、冷たいイデオロギー、律法主義となり、律法を守れない人々に対する差別の道具となり、日々の生活に追われている人々にとって重い負担となります。律法主義では神様が慈しみ深い方ではなく、厳しい裁判官のような方となり、その裁きの基準は、人の内面生活と関係なく、手を洗っていないとか、安息日を守らないとかというような外面上の規定となります。イエスは律法主義者の偽善を暴きながら、愛の原点に立ち戻ろうとすることによって、律法を完成したというのは今日の福音書のメッセージです。このメッセージはもうすでに旧約の預言者を通して伝わって来ていました。神が定めた法の根底に愛の掟があり、この法は石の文字に刻んであるのではなく、人間の心の奥深いところに刻み込まれていると言います。人を殺さなくても、他者に対する軽蔑の思いそのものは殺害と等しいということになります。姦通罪を実際に犯さなかったとしても、異性に対する淫らな思いは、姦通罪と等しい。現代の例で言えば、罪というものは、外面上の交通違反そのものではなく、スピードを出そうとして他人のいのちを顧みないうぬぼれの強い傲

慢な心から生まれてくるということになります。

皆さんのご存知のようにこの罪の理解は明治時代の知識人の考え方に大きなインパクトがありました。特に目漱石そうです。「心」という小説なので「先生」の心にあるどうしようもない罪悪感は命題です。夏目漱石と同時代の知識人、特にキリスト教に改宗した内村鑑三の本もそうです。彼は特にマタイ書をコメントして、次のようなことを書いています。人間は皆、嫉妬心、競争心を持っています。競争心を持っていると、必ず自分の相手が死ねばいいとか、傷つけばいいとか、失敗すればいいとかというふうに、ライバルの不幸を望みます。日本の一般常識では人を実際に殺せば殺人となりますけれども、心の中で相手を殺している分には罪にはなりません。しかし福音の観点からには、それは罪だということになります。この内村の言葉は私の心に残っています。

今日の福音に戻りますが、律法だけではなく、イエスは預言者も完成したと言う。預言者は文字通り神の言葉を預かり、その言葉にある神の思いを唯一の基準として、個人や社会の歪んだあり方を厳しく批判しています。彼らは、律法学者と違って、人の心の中にある偽りの気持ち、社会現状に潜んでいる見えない不正の構造を暴き出したう上に、社会の行方を鋭く見通しておる使命を持っています。現状のこのままだと破滅しかないと警告を与えている人たちです。悔い改めを訴えた洗礼者ヨハネはその典型ですが、預言者は時々神を厳しい懲罰者のように見てしまい、神の思いやりを忘れて、裁きを重んじていました。これに対して、罪人を含めて、全ての人を愛する慈しみ深い神を信じていたイエスの福音は預言者のメッセージも完成したと言えます。

ところが現代の世俗社会においては、政教分離がなかった時代の律法とか預言者という言葉はもう使いません。律法が世俗化して憲法、民法、国際法となり、この法によって国や社会が統治されています。ところがこうした近代社会の定めたほとんどの法は、十戒を始め、人間の尊厳、弱い人への配慮を教えている聖書の教えに根ざしています。人権もそうです。その意味で私たちは国の法と人権を守らなければならないでしょう。しかし福音を信じている私たちは、他の人のように警察の罰を恐れて法に従うだけではありません。私たちは人間の心に刻まれた愛の法に従います。愛のない律法は律法主義になったと同様に、愛のない人権尊重は人権主義、冷たいイデオロギーとなれます。また先ほど言ったように一般の法律では、嫉妬心、軽蔑、淫らな思いなどは罰の対象になっていないが、愛を信じている私たちにとって、このような心の中の思いは

相手に対する殺害、差別、侮辱などとなります。

また現代社会には預言者と呼ばれている人はいないが、彼らの果たした役割の代わりに、評論家や社会運動の活動家があります。最近の評論家は自分の好き嫌いを言うだけでお金になるので、良心的な人が少ないようだが、正義と平和のために闘っている活動家を私たちは尊敬します。しかし信者である私たちは正義を守るという立場だけではなく、神の思いを自分のもの物差しとして闘っています。イエスの教えたように私たちは憎しみの論理を避け、敵も愛していて、敵の救いのために祈っています。どんなことがあっても冷たい正義だけでなく、愛の眼差しで人を見ています。こうすることによって私たちは律法と預言者を完成したイエスの使命を引き継ぎ、イエスの弟子となり、神の国の完成に貢献させていただいています。どうかこのような人になれることを祈りたいと思います。